

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称： グローバルキッズ戸塚吉田町保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：戸田 雄介	定員（利用人数）：名 120名（利用人数：120名）
所在地：〒244-0817 横浜市戸塚区吉田町104-2 ザ・パークハウス戸塚1階	
TEL： 045-866-2822	ホームページ： https://www.gkids.co.jp/facilities/nursery_046.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成26年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社グローバルキッズ	
職員数	常勤職員：26名 非常勤職員：7名
専門職員	（専門職の名称） 名
	園長：1名 看護師：1名
	主任：1名 管理栄養士：3名
	保育士：26名 栄養士：1名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
	保育室：7室 園庭：有
	トイレ：6ヶ所
	調理室：1ヶ所
	ランチルーム：1ヶ所
	事務室兼医務室：1ヶ所
	沐浴室：1ヶ所
	調乳室：1ヶ所 職員休憩室：2室

③ 理念・基本方針

企業理念 子どもの未来のために

保育理念 豊かに「生きる力」を育てる

園の保育目標

- ・ありのままの自分を大切にできる子ども
- ・自分で考えて行動できる子ども
- ・自分の好きなことに自信がもてる子ども
- ・相手の気持ちがわかる子ども

保育方針

1. 子どもにとって居心地の良い、安心できる場所がある保育
2. 子どもの気持ちを尊重し、寄り添い受け止める保育
3. 子どものつぶやきに耳を傾けながら、共に考え向き合う保育

④施設・事業所の特徴的な取組

・暮らしの保育…社会が失ってしまった異年齢でのコミュニティを補完する場所を作っていかなければならないと考えています。子どもと共に豊かに生きるという意識をもって保育園で暮らしを創っていきます。

・「主体的で対話的で深い学び」がこれからの時代のキーワードになる中で、自ら考え、自ら学び、自ら判断して行動できる「生きる土台」を育むことを大事にして保育にあたっています。

・乳幼児期の大事な時期だからこそ、一人ひとりをゆっくりと見守り、仲間の中で生きる力の土台を作っていきます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年5月9日（契約日） ～ 令和6年3月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2020 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)人と人のかかわりを大切にした「暮らし」を提供する園の実現に取り組んでいます

豊かに「生きる力」を獲得するために、園では子どもたちが長い時間を過ごす保育園での「暮らし」を大切に考えており、「暮らしの保育」を掲げて様々な取組を実施しています。そして、そのためには、様々な対話が必要と考え、職員同士、職員と子ども・保護者、子ども同士、保護者同士の対話が自然に生まれるよう努めています。それぞれが自分の考えを持てる環境を整え、ゆっくり話し合う機会を意図的に多く用意しています。対話により、互いの気持ちや考えの違いをそれぞれの個性として尊重する力を育てています。

2)子どもが意欲をもって食に関わる経験を積み重ねていく保育を実施しています

保育と食育の連携を強化しています。職員は「食の未来を考える会」を立ち上げ、買い物をする子、野菜を切ったりちぎったりする子など、協同作業を通じて一つの物を作っていき暮らしの営みを経験できるように努めています。園内で米を栽培し、子どもたちが米とぎを行っています。3歳児以上は提供時間内の食べたい時間に、好きな場所を選び、食べたい量を自分で盛り付けています。自分の食べる量を知ることができ、全部食べることができた喜びを感じられるよう支援しています。食育を保育の計画に位置づけ、豊かな経験ができるように工夫し取り組んでいます。

3)子どものやりたいという気持ちを実現しています

5歳児を中心に子どもミーティングを開き、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを受け入れたりする場を設けることで、互いを知り、遊びや活動の場で協力し合えるよう配慮しています。夏祭りやスポーツフェスティバル、開園10周年の記念祭などの行事も子ども同士で話し合いを重ね、出し物を決めています。3歳児以上は、クラスで話し合ったいくつかの活動の中から自分で選択しています。自分でやりたいという気持ちを行動に移し、実現できる子どもを目指しています。

4)遊びを通して、興味や関心がある活動に取り組める環境を整えています

子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分

に把握しています。学びとは、遊びや身近な人との関わりの中で自然と備わっていくものと考えています。基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく子どもの主体性を尊重しています。遊びを通して、体力づくりや健康指導、創作活動、協同作業などを自然に子どもたちが認識できるよう配慮しています。子どもたちとの対話を大切にし、一緒に「保育園での暮らし」を創り上げることに取り組んでいます。

5)園の取組を実現するうえで、さらなる情報発信や記録化に期待します
園は時代の流れに沿った最先端の保育をめざし、職員も意欲的に取り組んでいます。園からの情報提供を主目的とする懇談会ではなく、保護者自身が積極的に参加し、園の保育に理解を深めています。また、保護者有志による行事や道具作り・修繕などに協力しています。環境や子どもの状況の変化、取組について更なる情報発信が期待されます。また、その都度、課題と目標、取組とその経過、成果についての文書化も期待されます。

6)安全確保のさらなる取組に期待します
園はリスクマネジメントや非常時の役割分担などを明示して、全職員に配付しています。リスクとハザードの洗い出しと対策に、プロジェクトチームを作って取り組んでいます。園内の安全確保に努めていますが、子どもが主体的に活動することも多いため、安全性を危惧する声もあります。園内での職員による検討や保護者への周知など安全対策の強化が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回3回目の第三者評価でした。職員と園の業務の見直しや日々の保育の改善ができる良い機会となりました。保護者アンケートでは率直なご意見をいただき、参考にしながら今後は改善に努めていきたいと思えます。園の理念は常に話ができているので浸透している割合が高く、保護者の方にご理解をいただいているのは自園の強みだと思っております。職員の満足度としてはやはり人手の問題で残業が多くなってしまっているのが現状なので、人でも整備しながら改善に努めていこうと思えます。働きやすい職場作りを目指し、園運営に保護者の方を巻き込んでいながら今後も地域に根付く運営に力を入れていきたいと思えます。子ども・保護者・職員と手を取り合いながら対話を重ね、みんなで創る保育園になるように努力していきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり